

「自ら考え、進んで学習に取り組む児童の育成」

～読解力を高める授業づくりを通して～

I 研究の内容

1 研究の仮説

授業の中に、読解力が高まるような活動を取り入れていくことで、自ら考え、進んで学習に取り組む児童を育成できるであろう。

2 研究の具体的内容

(1) テーマに関わる理論学習

- ・新学習指導要領で求められる知識・技能の活用をもとにした思考力・判断力・表現力をはぐくむための学習活動について学習する。
- ・思考力・判断力・表現力を育成することと、言語に関する能力（読解力）との関わりについて学習する。
- ・思考力・判断力・表現力を育成するための、言語に関する能力（読解力）を高める授業方法について学習する。

(2) 読解力に視点を当てた授業実践

- ・授業の中に、読解力が高まるような活動を取り入れた実践を行う。
- ・学級担任全員が、読解力に視点を当てた授業実践を行う。
- ・様々な学年、様々な教科での実践を通して、読解力を高めるために、今後、何に視点を当てた研究が必要かを探る。

(3) 新教育課程に関わる学習会

- ・教育課程指導資料を活用しての新学習指導要領に関わる学習を行う。
- ・教育課程説明会を受けて、教育課程の編成を行う。

(4) 外国語活動に関わる学習会

- ・外国語活動の指導について、ALTを交えての学習会を行う。
- ・外国語活動の授業実践を行う。

II 成果と課題

(1) 関わって

- ・理論学習により読解力への理解が深まった。

(2) 関わって

- ・いろいろな教科で読解力という観点で研究できた。

- ・全員が授業実践し、いろいろな側面から研究が進められ読解力について考え、学ぶことができた。
- ・一人一実践の授業を見合うことで、児童の発達段階に応じた指導等、学ぶことができた。
- ・「読解力を高める」という点では今後、さらに追究していきたい。
- ・読解力を高める授業づくりについて「教科をしぼる」「授業スタイルを検討する」「書き方、発表の仕方」「学年の段階に応じたポイント（ワークシート）」等、研究内容の焦点を絞って行く必要がある。
- ・「こういう試みをした結果→こうなった」というように、可能な限り具体的な研究の手法や子どもたちの変容、検証方法が、明確にできるような研究の取り組みも、今後は考えていく必要がある。

#### (3) に関わって

- ・今までなかったものに取り組むことができたのでよかった。新しい指導要領のポイントなどもわかった。

#### (4) に関わって

- ・他の学年の授業を見ることができてよかった。
- ・児童の様子を見ていても、確実に積み上げられて力がついているように思う。
- ・子どもたちも楽しみに活動していた。ALTも常に創意工夫した授業内容で、子どもたちにとって魅力ある授業であった。
- ・担任が主という面では、関わり方が、まだよく分からない。事前によく打ち合わせをするべきなのだろうが、不足していた。
- ・今後も継続して研修を実施していく必要がある。

### III 成果物

#### 1 読解力に視点を当てた授業実践指導案（ワークシート等も含む）

- 1年 国語科「本と友だちになろう」筒井美代子教諭
- 2年 算数科「九九をつくろう」鶴田さゆり教諭
- 3年 社会科「見直そうわたしたちの暮らし」飯室美華教諭
- いちょう学級 国語科「なぞなぞゲームで学ぼう」田中美穂教諭
- 4年 国語科「アップとルーズで伝える」大村健一教諭
- 5年 社会科「工業の今と未来」金井巖教諭

#### 2 外国語活動授業実践指導案

- 6年 外国語活動「どんなスポーツが好きですか。」飯島典子教諭

(研究主任 金井巖)